



まぼろしの鉄道

『新修宗像市史』近代部会から

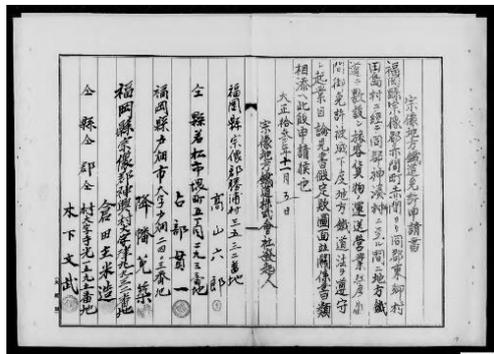
『新修宗像市史』近代部会では、明治維新の頃から終戦までの、近代の宗像に関する歴史を調査しています。調査項目は産業や教育、軍事など様々な面に及び、史料も国の公文書から個人の手紙まで実に多種多様です。今回はこうした宗像の近代史から、まぼろしの鉄道についてご紹介します。

赤間・東郷からの鉄道計画

宗像市を走る鉄道は、今も昔も、鹿児島本線(宗像市域は明治23年に開通)一本だけです。しかし歴史を紐解いていくと、計画だけで実現しなかった鉄道が、数多くありました。その中で多いのは、鹿児島本線の駅がある赤間や東郷から、海岸部や筑豊に至る路線です。

明治29年11月29日、当日付の『福陵新報付録』に、当時の福岡県下の鉄道計画約50社が紹介されました。その中に、当時の赤間村から吉武村を経て鞍手郡西川村に至る赤間鉄道という会社が、発起申請日を変えただけで2社ありました。また津屋崎鉄道という会社も2社あります。1社は津屋崎町から赤間(鞍手郡宮田(嘉穂郡勢田)大隈町の計画、もう1社は津屋崎港(赤間)直方間と、津屋崎港(福岡駅間の2路線を建設する計画でした。これは、すでに発

に特許が下付されましたが、後に福岡起点に変更するも、大正8年に返納しています。大正8年には、赤間町(鞍手郡植木町)を結ぶ筑州鉄道にも免許が下付されましたが、やはり大正13年に失効となりました。また、大正15年、赤間(神湊)を結ぶ宗像地方鉄道に、国から免許が下付されましたが、着工には至りませんでした。これらの鉄道については、国立公文書館所蔵の『鉄道省文書』に国立公文書があり、計画の詳細な内容が読み取れます。

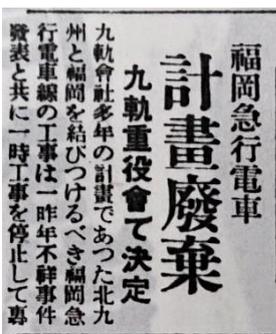


宗像地方鉄道の免許申請書 (国立公文書館所蔵)

設する博多湾鉄道(会社系統上は後に西鉄)は、現香椎線の奈多付近から分岐し、福岡・東郷を経て鞍手郡に至る路線の免許を取得しました。しかし現香椎線以外は完成することなく、まぼろしに終わります。大正7年には、やはり西鉄前身企業の一つ、九州電気軌道が、折尾(赤間)福岡(博多)を結ぶ福岡急行線を出願し、翌年特許を得ます。『西日本鉄道百年史』によると、この計画は全線複線の専用軌道で、すでに同社が開業させていた門司(折尾)間と直通させることで、北九州地区と福岡地区を結ぶ計画でした。後にはすでに開業していた区間でも高規格の専用軌道を引き直し、さらには関門海峡に橋を架けて本州まで路線を延ばす構想も生まれたといえます。この計画も、会社の経営上の問題でまぼろしに終わりましたが、もし実現していれば、今ごろ宗像市には福岡市や北九州市、さらには本州までも結ぶ西鉄電車が走っていたことになり、宗像市の姿を考える上で実に興味深い計画といえます。

西鉄前身会社の壮大な計画

これまで紹介した計画は、比較的小規模な鉄道計画でしたが、一方で現在の西日本鉄道の前身会社が計画した大規模な鉄道計画にも、宗像の地が登場します。明治33年、現在のJR香椎線を敷



福岡急行電車計画破棄を伝える『福岡日日新聞』(昭和7年12月23日)

(近代部会 渡部邦昭)